

世界史 問題 I

次の文章をよく読んで、下記の問題に答えなさい。

北周と北齊の東西対峙の形勢は、577年に東の北齊が滅び、華北は西の北周の統治下にはいった。しかし、その北周も580年に外戚の楊堅に位を奪われ、楊堅の隋が589年に南朝最後の陳を併合し、中国は久しぶりに統一された。ところが、ようやく訪れた隋による統一政権も、三十数年で崩壊してしまった。隋末の乱が勃発したのである。

中国史上しばしばあらわれた「乱」には、乱徒が身につけたシンボルや反乱首謀者の名をとって命名される場合が多い。③の乱(新末)、④の乱(後漢末)、⑤の乱(元末)などは前者であり、⑥の乱(秦末)、⑦の乱(唐)、⑧の乱(唐末)、⑨の乱(明末)などは後者である。また、⑩の乱(清)は上帝会が称した国号に、⑪の乱(清末)は宗教団体の名称によっている。しかし、隋末の乱にはそのような呼称がない。乱徒が反乱のシンボルを身につけたこともなく、首謀者が限定されるわけでもなく、とりわけ宗教色が濃いわけでもない。そこで、一般的には「隋末の乱」または「隋末唐初の乱」と呼んでいる。ただし、このような呼称しかできないということは、逆にいえば反乱の規模がそれだけ大きかったことを物語っているのである。事実、隋末の乱は中国史上で最大規模の乱であり、四川を除く中国のほぼ全域を巻き込んだ。その特徴は極めて土着性の強いことにあり、典型的な群雄割拠の情勢をつくりあげた。この点は、唐末の⑦の乱が、⑫の商業経路を利用して非常に流動的な動きを示したことと対照的である。つまり、隋末と唐末の反乱の動きの違いは、⑬ことを物語っているのである。

さて隋末の乱は、早くも第二代煬帝の治世七年(大業七(611)年)に山東の王薄という民が長白山にたてこもって「遼東に向かいて浪死する無かれ」という歌を広め、兆候をみせはじめた。歌の意味は「⑭に従軍して犬死になどするな」という呼びかけで、兵役を逃れようとする者が多数王薄のもとに帰属したという。中国史上の反乱は、しばしば山東地方を中心とする傾向を示すが、隋末の乱は山東から起こる必然性

があった。その原因の一つは、ここに歌われる数次にわたっておこなわれた ⑭ であり、もう一つは隋代に完成した ⑮ である。この二つの重労働は、地理的關係から多くは山東の民に課されたのであり、これによって山東は疲弊し、政府にたいする不満が蓄積していたのである。

(石見清裕『唐代の国際関係』山川出版社 2009 年, pp.10-12 一部改)

問 1 下線部①について。

- a) 「東西対峙の形勢」とあるが、このような形勢に至る以前、5世紀の前半に華北を統一した政権(王朝)の名、この政権を建てた民族の名、創建者の氏族名を答えなさい。
- b) 上記の政権が統一した華北地方が「東西対峙の形勢」に至る過程を簡潔に説明しなさい。

問 2 下線部②について。

- a) 「外戚」とはどのような立場か、簡潔に説明しなさい。
- b) 中国史において「外戚」は国政を混乱させる要因の代表のように言われることが少なくないが、それはどのような原因によるものか、例を挙げて説明しなさい。

問 3 ③ ~ ⑪ について。

- a) ③ ~ ⑪ の「乱」の名を答えなさい。
- b) これらのうち、⑩ と ⑪ は宗教団体とのかかわりが本文中に明記されているが、この2つ以外に宗教団体と関わりのある「乱」は少なくとも2つある。該当する「乱」を番号で答え、それぞれが関係する宗教団体の名称を書きなさい。

問 4 ・ について。

- a) に当てはまる語句を答えなさい。
- b) に入るべき、隋末と唐末の反乱の動きの違いの背景となった社会情勢の変化について簡潔に答えなさい。

問 5 ・ について。

- a) これらの空欄に当てはまる語句を答えなさい。
- b) が最終的に解決したのはいつのことか。王朝名と支配者(皇帝)の名で答えなさい。
- c) との関わりが深い中国歴代王朝の首都を3つあげなさい。またこれの完成がその後の中国史に与えた影響について簡潔に説明しなさい。